

欧州自動車産業ニュース

No. 818

2022年1月14日号



ヴィテスコ、10億ユーロ超の受注獲得
米自動車大手から、中国と日本からも受注

英新車登録、21年通期は1.0%増加

BMW、独新興企業HeyChargeに資本参加

ラインメタル、米新興とDCリンクコンデンサの合併設立

© European Community

■注意■

- 1.本誌の使用は、お申込み登録いただいた住所の事業所内及びE-Mailアドレスに限り、他への配布・回覧・転送を固く禁じます。
- 2.本誌のご利用によって生じたトラブル・損失・損害に関し、当社は一切の責任を負いません。

FBC Business Consulting GmbH August-Schanz-Str.8, 60433 Frankfurt/M. (Germany)
Tel : 069-5480950, Fax : 069-54809525, E-mail : fbc@fbc.de, <http://www.fbc.de>

Rechtsform: GmbH Sitz: Frankfurt am Main HRB 44664 Geschäftsführer: Susumu Fujita

総合

英新車登録、21年通期は1.0%増加.....	4
ロシア新車販売、21年通期は4.3%増加	5

企業情報

自動車メーカー

BMW、独新興企業HeyChargeに資本参加	7
日産のバルセロナ工場売却先、OEVが最有力候補に	7
ボルボの大型電気トラック「FH」、省エネ性がディーゼル車より50%向上.....	7
ボルボ・カーズの条件付自動運転機能、米加州にて先行導入へ.....	8
仏ルノー、米クアルコム「デジタルシャシ」の導入拡大	8

部品メーカー

独ヴァイテスコ、米自動車大手から10億ユーロ超の大型受注獲得	9
蘭ヒアのスマートナビ、ベトナムのビンファストの新型EVに導入	9

クローズアップ

Green:Code	10
------------------	----

欧州自動車短信

メルセデスベンツ、オペル	11
--------------------	----

一般・その他

英の新規感染者、20万人突破、政府は規制強化せず	12
伊政府、50歳以上のワクチン接種を義務化	12
EUのワクチン接種証明、有効期間9カ月に	13
エネルギー分野の国家補助、欧州委が新ガイドライン発表	13
原子力と天然ガスは「グリーン」な投資対象、欧州委が「タクソミー」リストに追加	14
欧州委、復興基金の財源確保案発表	15

テクノロジー・トレンド

独ラインメタル、米新興企業とDCリンクコンデンサの合弁設立	16
蘭トムトムの自動運转向け地図製品、自動車大手の採用増える	16

目で見える欧州自動車産業ニュース

英国、乗用車新車登録:2021年通期	17~18
--------------------------	-------

企業名索引.....11

欧州経済を伝える



FBCでは、読者の皆様と一緒に誌面作りに取り組みたいと考えております。
お気づきの点や率直なご意見・ご感想など、弊社カスタマーサポートまで
ぜひお気軽にお寄せください。

< FBCカスタマーサポート >

Tel : +49-(0)69-5480950 Email: info@fbc.de

FBC Business Consulting GmbH
August-Schanz-Str.8, 60433 Frankfurt/M/Germany

<http://www.fbc.de>

総合

英新車登録、21年通期は1.0%増加

英自動車工業会（SMMT）は6日、同国の2021年通期の乗用車新車登録が164万7,181台となり、前年に比べ1.0%増加したと発表した。前年はコロナ禍により販売が低迷していたため、微増となったが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大（パンデミック）前の2019年（約230万台）と比べると28.7%の減少となる。

21年通期の燃料別の登録台数は、ガソリン車が前年比15.7%減の76万2,103台で、市場シェアを前年の55.4%から46.3%に落とした。ディーゼル車は前年比48.1%減の13万5,773台で、市場シェアは前年の16.0%から8.2%に大きく後退した。

電気自動車（BEV）は、前年比76.3%増の19万727台と好調で、市場シェアを11.6%に拡大した。プラグインハイブリッド車（PHEV）も前年比70.6%増の11万4,554台となり、市場シェアは7.0%となった。ハイブリッド車（HEV）も前年比34.0%増の14万7,246台と大幅に伸びている。

SMMTはオミクロン株の感染が拡大する前の10月、2022年の新車販売が196万台になるとの予想を示している。

英国、乗用車新車登録台数：燃料別 2021年					
12月					
カテゴリー	2020年	市場シェア	2021年	市場シェア	変動率
ディーゼル	15,813	11.9%	5,201	4.8%	-67.1%
マイルドハイブリッド(MHEV)・ディーゼル	5,754	4.3%	3,901	3.6%	-32.2%
ガソリン	58,494	44.1%	42,048	38.7%	-28.1%
マイルドハイブリッド(MHEV)・ガソリン	13,629	10.3%	12,715	11.7%	-6.7%
電気自動車(BEV)	21,914	16.5%	27,705	25.5%	26.4%
プラグインハイブリッド車(PHEV)	9,130	6.9%	8,336	7.7%	-8.7%
ハイブリッド車(HEV)	7,948	6.0%	8,690	8.0%	9.3%
新車登録総数	132,682		108,596		-18.2%
1～12月					
カテゴリー	2020年	市場シェア	2021年	市場シェア	変動率
ディーゼル	261,772	16.0%	135,773	8.2%	-48.1%
マイルドハイブリッド(MHEV)・ディーゼル	60,953	3.7%	98,753	6.0%	62.0%
ガソリン	903,961	55.4%	762,103	46.3%	-15.7%
マイルドハイブリッド(MHEV)・ガソリン	119,179	7.3%	198,025	12.0%	66.2%
電気自動車(BEV)	108,205	6.6%	190,727	11.6%	76.3%
プラグインハイブリッド車(PHEV)	67,134	4.1%	114,554	7.0%	70.6%
ハイブリッド車(HEV)	109,860	6.7%	147,246	8.9%	34.0%
新車登録総数	1,631,064		1,647,181		1.0%

出所：英自動車工業会（SMMT）

（次頁に続く）

英国、乗用車新車登録台数：顧客別 2021年					
12月					
カテゴリー	2020年	市場シェア	2021年	市場シェア	変動率
個人	47,193	35.6%	56,606	52.1%	19.9%
大口法人	81,803	61.7%	48,786	44.9%	-40.4%
小口法人	3,686	2.8%	3,204	3.0%	-13.1%
新車登録総数	132,682		108,596		-18.2%
1～12月					
カテゴリー	2020年	市場シェア	2021年	市場シェア	変動率
個人	747,507	45.8%	802,504	48.7%	7.4%
大口法人	849,309	52.1%	812,029	49.3%	-4.4%
小口法人	34,248	2.1%	32,648	2.0%	-4.7%
新車登録総数	1,631,064		1,647,181		1.0%

出所：英自動車工業会(SMMT)

(『目で見える欧州自動車産業ニュース』17～18頁の表参照)

<AI19827>

ロシア新車販売、21年通期は4.3%増加

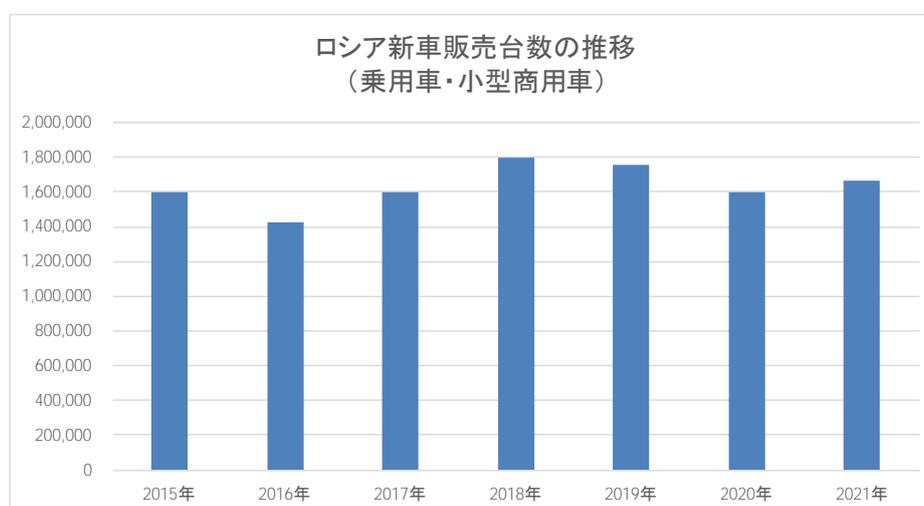
ロシアの欧州ビジネス協会（AEB）は13日、同国の2021年通期の新車販売（乗用車・小型商用車）が166万6,780台となり、前年に比べ4.3%増加したと発表した。ただ、12月の新車販売は13万3,470台と、前年同月に比べ19.9%減少している。

通期で新車販売が増加したのは、2020年に実施された都市封鎖（ロックダウン）の影響で販売が急減した反動があり、特に2021年第2四半期の新車販売が大幅に増加した。

第3四半期以降は、半導体不足による生産台数の減少や物流の問題、原材料の価格上昇などにより、販売減少が続いている。自動車製造業者委員会（AMC）のトーマス・シュテルツェル会長は、これらの問題がすぐに改善する兆しはない、との見解を示す。

同委員では、これらの問題が2022年も当面続く見通しであることを踏まえ、2022年の新車販売が前年比3.3%増の172万2,000台になるとの予想を示している。

ロシアの新車販売は2015年以降、140万台～180万台の間で推移している。



出所：Association of European Business

ロシア年新車販売 2021年(上位20社)			
順位	ブランド名	12月	
		販売台数	前年同月比
1	アフトワズ(ラーダ)	29,919	-27%
2	起亜	15,531	-22%
3	ルノー	12,049	-1%
4	トヨタ	10,369	13%
5	現代	7,591	-54%
6	シュコダ	7,206	-26%
7	GAZ LCV	6,357	-28%
8	日産	5,603	12%
9	ハヴァル	4,361	74%
10	フォルクスワーゲン	4,354	-53%
11	奇瑞汽車(Chery)	4,235	102%
12	UAZ	3,475	-51%
13	マツダ	3,203	6%
14	三菱自	3,106	16%
15	フォード LCV	3,101	32%
16	吉利汽車(Geely)	2,108	24%
17	レクサス	1,156	-52%
18	ジェネシス	1,060	616%
19	プジョー	1,042	45%
20	アウディ	809	-58%
∴		∴	
合計		133,470	-19.9%

出所: Association of European Business

ロシア年新車販売 2021年(上位20社)			
順位	ブランド名	1~12月	
		販売台数	前年同期比
1	アフトワズ(ラーダ)	350,714	2%
2	起亜	205,801	2%
3	現代	167,331	3%
4	ルノー	131,552	2%
5	トヨタ	97,941	7%
6	シュコダ	90,443	-4%
7	フォルクスワーゲン	86,108	-14%
8	GAZ LCV	56,468	10%
9	日産	51,338	-9%
10	BMW	46,802	10%
11	メルセデスベンツ	43,011	11%
12	ハヴァル	39,126	125%
13	奇瑞汽車(Chery)	37,118	224%
14	UAZ	32,420	-11%
15	マツダ	29,177	11%
16	三菱自	27,699	-2%
17	吉利汽車(Geely)	24,587	59%
18	フォード LCV	20,840	48%
19	レクサス	19,362	-6%
20	アウディ	16,404	8%
∴		∴	
合計		1,666,780	4.3%

出所: Association of European Business

<AI19828>

FBCはロングリスト・ショートリスト調査を通して
 日本企業の欧州進出を強力サポート！
 欧州に攻め込むための最新の営業リストを作成いたします

企業情報

■自動車メーカー■

BMW、独新興企業 HeyCharge に資本参加

独自動車大手の BMW グループは 13 日、傘下の投資会社 BMW i ベンチャーズを通して独新興企業の HeyCharge に出資したと発表した。HeyCharge は 2020 年の設立。このほど実施した投資ラウンドで 470 万ドルの資金を確保した。

HeyCharge が特許を申請中の技術「SecureCharge」は、例えば、地下駐車場や立体駐車場のようないんターネットに接続できない場所でも充電することができる。充電器と HeyCharge アプリまたはソフトウェア開発キット（SDK）間の通信を、ブルートゥースを介して行う仕組み。

同技術を活用すると、従来の充電器の調達・設置や通信・サービスにかかるコストを大幅に削減できる利点もある。

<AI19829>

日産のバルセロナ工場売却先、QEV が最有力候補に

日産自動車は 12 月 29 日、先ごろ閉鎖したスペイン・バルセロナ工場の売却先について、スペイン当局が同国の新興エンジニアリング企業 QEV テクノロジーズを最有力候補として挙がっていることを明らかにした。

QEV は電気自動車（EV）の開発などを手がける企業。日産によると、同社はバルセロナ工場を取得し、EV 生産の拠点として活用することを計画しているという。

日産は 2020 年 5 月、経営再建策の一環としてバルセロナ工場を 20 年末に閉鎖する意向を表明。スペイン政府や従業員の反発で閉鎖を 1 年延期し、昨年 12 月 17 日に生産を終了した。

同工場の売却をめぐるのは、中国の長城汽車と交渉を進めていたが実現に至らず、日産がスペイン政府と労組代表と連携し、新たな売却先を探していた。

<AI19830>

ボルボの大型電気トラック「FH」、省エネ性がディーゼル車より 50% 向上

スウェーデンの商用車大手ボルボグループは 4 日、大型電気トラック「ボルボ FH」の最大積載時のエネルギー効率テストをドイツで実施していることを明らかにした。同クラスのディーゼルエンジンモデルよりも 50%、エネルギー消費が少ないという。

試験車両の「ボルボ FH」は連続最大出力が 490 キロワット（kW）、車両総重量は 40 トン。高速道路や起伏のある地形、狭隘な道路などを含む総延長 343 キロメートル（km）の試験ルートを平均時速 80 キロで走行し、走行 1km 当たりのエネルギー消費量が 1.1 キロワット時（kWh）との結果を得た。充電 1 回の航続距離は 345km。同社は、例えば食事休憩中などに短時間充電することで、ドライバーの 1 勤務シフト中に最大 500km まで走行することも可能だとしている。

「ボルボ FH」は地域および都市間輸送用途に開発された。量産開始は今年後半を予定している。同社は 2030 年までに欧州におけるトラック販売の半数を電気駆動車とする目標を掲げる。

<AI19831>

ボルボ・カーズの条件付自動運転機能、米加州にて先行導入へ

スウェーデン自動車大手のボルボ・カーズは5日、条件付き自動運転機能「ライドパイロット」を、米カリフォルニア州の顧客向けに先行導入する予定だと発表した。高速道路での安全性を確認した後、年内発売予定の完全電気自動車（BEV）のSUV旗艦モデルにサブスクリプション機能として搭載する。同社によると、同機能の動作中は「ボルボ・カーズが運転に責任を持ち」、ドライバーが運転以外のことに時間を使えるようになる。

ライドパイロットは同社が自動運転ソフト子会社のゼンスアクト（Zenseact）および提携するルミナーと共同で開発した。ルミナーの最新のライダー（LiDAR）センサー「イリス（Iris）」など20を超えるセンサー部品で構成され、ゼンスアクトのソフトで制御される。ソフトの更新は無線通信により行う。ボルボ・カーズによると、発売予定のSUVモデルには5つのレーダー、8つのカメラ、16の超音波センサーが搭載されており、ルミナーのライダーと連携して動作する。

ライドパイロットの機能検証の一環として、同社とゼンスアクトは共同でスウェーデンにて実証走行試験を実施しており、今年半ばにはカリフォルニア州の道路で試験を開始する。機能の安全性が確認され、必要な許認可を取得した後にカリフォルニア州で導入を開始し、その後段階的に世界展開していく方針という。

<AI19832>

仏ルノー、米クアルコムの「デジタルシャシ」の導入拡大

仏自動車大手のルノーは5日、米半導体大手のクアルコムとの提携関係を強化すると発表した。クアルコムの統合型集積回路（SoC=システム・オン・チップ）の「スナップドラゴン（Snapdragon）」をベースとした自動車用デジタルプラットフォーム群「スナップドラゴン・デジタルシャシ」の導入を拡大する。自動運転やコネクテッドに必要なデジタル技術を複数のプラットフォームとして提供する「スナップドラゴン・デジタルシャシ」を活用し、自社モデルのデジタル機能の短期間の開発と実装を目指す。

「スナップドラゴン・デジタルシャシ」は自動運転、デジタルコックピット、クラウド化、通信などの各技術に対応したプラットフォーム・モジュールで構成される。ルノーではこれらの活用により、◇無線アップデートや各種サービスを可能にするクラウド接続機能◇次世代通信（5G）、Wi-fi、ブルートゥース、車対外部通信（V2X）、位置決めなどのコネクテッド機能◇レベル1およびレベル2プラスの自動運転に必要なADAS（先進運転支援システム）機能◇デジタルコックピット——などの開発を強化する。

ルノーはすでに電気自動車（EV）「メガーヌEテック」にスナップドラゴンのデジタルコックピット機能を採用することを明らかにしている。同社のソフトウェアエンジニアリング部門「ルノー・ソフトウェア・ファクトリー」を統括するティエリー・キャマル氏は「クアルコムのような業界を主導するテクノロジー企業と緊密に連携することにより、イノベーションを加速し、高度な機能に対する需要とトレンドの急速な変化に対応できるようになる」と述べた。

<AI19833>

■部品メーカー■

独ヴィテスコ、米自動車大手から10億ユーロ超の大型受注獲得

独自動車部品大手のヴィテスコ・テクノロジーズ（以下、ヴィテスコ）は10日、米国の自動車大手から10億ユーロを超える大型受注を獲得したと発表した。800ボルトのSiC（炭化ケイ素）インバーターを供給する。同部品は、急速充電や電動車の効率改善および航続距離の延伸に寄与する。ヴィテスコは2025年初めから北米で、パワーモジュールと共に同製品の生産を開始する予定。

ヴィテスコによると、同社の2021年第4四半期における電動化部品の受注規模は総額で20億ユーロを超えた。米国での大型受注に加え、中国と日本の自動車メーカーからそれぞれ数億ユーロ規模の受注を獲得した。当該取引では、電気自動車向けの高電圧アクスルドライブと高電圧パワーエレクトロニクスを供給する。

ヴィテスコは、独自動車部品大手コンチネンタルから分離・独立したパワートレイン事業を前身とする。

<AI19834>

蘭ヒアのスマートナビ、ベトナムのビンファストの新型EVに導入

蘭デジタル地図大手のヒア・テクノロジーズは1月7日、ベトナムの自動車メーカー、ビンファストの電気自動車（EV）モデルにナビゲーションシステムを供給すると発表した。ビンファストは最新モデルの「VF e34」、「VF8」および「VF9」の車載インフォテインメントシステム（IVI）にヒアのナビ機能を組み込み、スマートEVとして展開する。

ヒアはビンファストに対し、必要な機能だけを適宜導入できる「サービスとしてのナビゲーション」（NaaS）として各種機能を提供する。これによりビンファストのユーザーは車の全使用期間に渡り、ナビシステムの更新や新機能の追加などを随時できるようになる。同時にビンファストは、インフォテインメント情報の取得および開発プロセスを効率化できるため、開発コストが下がるとともに拡張性が向上し、競争力を高められる。

搭載するナビシステムは充電支援機能の「ヒア・EVチャージポイント・ポイントオブインタレスト」（POIs）により、車両のバッテリー残量に応じた複数のルート設定や、ドライバーが別ルートを選んだ場合の充電ポイントの追加情報などを提供する。ビンファストはまた、車載アプリにヒアのソフトウエア開発キット（SDK）を統合し、サービスの開発や改良を効率化する。

ビンファストは今年末までにガソリン車の生産を停止し、EV専門メーカーに転換する方針を示している。

<AI19835>



Green : Code

独自動車大手フォルクスワーゲン（VW）のチェコ子会社であるシュコダ自動車が同国の IT ホールディング会社 Etnetera グループと設立する合弁会社。

新合弁会社の設立により、デジタルツール、携帯端末アプリ、ウェブポータルなどの開発を強化し、シュコダの顧客体験（ユーザーエクスペリエンス）を改善する。また、次世代の電動モビリティのソフトウェアも開発する。

green:code

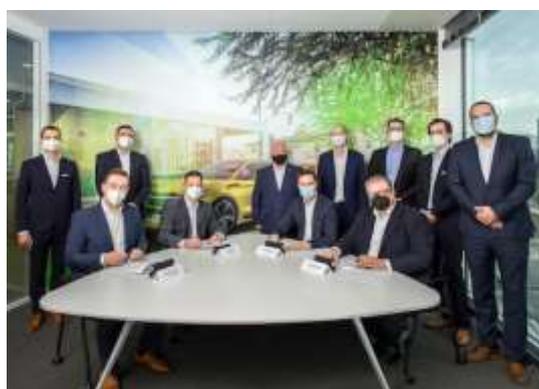
出所：SKODA AUTO

新合弁会社はプラハに本社を置く。今後数年で、開発者、ソフトウェアの設計者、ビジネスアナリスト、UX/UI（ユーザーエクスペリエンス/ユーザーインターフェイス）のデザイナー、テスターなど、IT分野の専門家 200 人を採用する計画。

両社はすでに、スマートフォンアプリの開発など、様々なプロジェクトを通して約 15 年に渡り協力関係にある。

シュコダ自は新合弁の設立により、同社の製品をより使いやすくして顧客体験を改善するとともに、IT分野の開発プロセスを効率化する。

シュコダ自は経営戦略「ネクストレベル・シュコダ・ストラテジー 2030」の中で同社におけるデジタル転換を強力に推し進めている。



出所：SKODA AUTO

欧州自動車短信

■ 独ダイムラーの乗用車・小型商用車子会社**メルセデスベンツ** は5日、電動(EV)ミニバン「EQV」のキャンピングカーモデルを発表した。モーターホーム(フルコンバージョン・キャンピングカー)分野の電動化を強化する。新モデルの車載電池容量は、60キロワット時(kWh)と90キロワット時(kWh)の2種類を用意する。90キロワット時(kWh)の場合、1回のフル充電で326～363キロメートル(WLTPモード)を走行できる。内装はモジュール式で、ポップアップルーフやベッドユニット、キッチンなどを設定できる。また同モデルは次世代インフォテインメントシステム「MBUX」を搭載しており、快適で安全な運転をサポートする。なお、「EQV」の改造はスイスのキャンピングカービルダーSortimo Walter Rueeggが担当する。

■ 欧州自動車大手ステランティス傘下の独**オペル**は6日、ドイツのアイゼナハ工場でコンパクトSUV「グランドランド」のプラグインハイブリッド(PHV)モデル「グランドランド・ハイブリッド」の生産を開始したと発表した。電動化戦略の一環となる。新モデルには、前輪駆動と全輪駆動の2タイプを設定する。システム最高出力は前輪駆動タイプが165kW(224PS)、全輪駆動タイプが221kW(300PS)となっている。内装には最新のフルデジタルコックピットや数々の先端運転支援システムを標準装備し、快適な運転をサポートする。

<AI19836>

■ 企業名索引

今週号のニュースで取り上げられた主な企業を対象としています。

Index

企業名	掲載頁	
BMW	7	Rheinmetall
Daimler	11	Skoda Auto
HERE	9	TomTom
Nissan	7	Vitesco Technologies
Opel	11	Volvo
Renault	8	Volvo Cars

一般・その他

英の新規感染者、20万人突破、政府は規制強化せず

英政府は4日、新型コロナウイルスの1日当たりの新規感染者が21万8,724人に達したと発表した。20万人を超えるのは初めて。感染力が高いオミクロン株への置き換わりが急速に進んでいる。それでも、ジョンソン首相は同日、規制を強化しない方針を改めて打ち出した。

1日当たりの新規感染者が同じく20万人を超えているフランスでは、3日からカフェやバーでの立ったままの飲食や、長距離列車や映画館内での飲食も禁止するなど規制を強化している。しかし、コロナ共生を掲げる英政府は、オミクロン株の感染拡大で新規感染者が連日、過去最高を更新する状況となっているにも関わらず、在宅勤務の推奨、公共交通機関でのマスク着用義務化など規制は緩い。レストランなど店舗は通常営業が認められている。

ジョンソン首相は記者会見で、ワクチンの追加接種促進や、マスク着用など基本的な感染防止対策を徹底することで「再び国を閉鎖しなくてもオミクロン株の波を乗り切るチャンスがある」と述べ、方針転換を否定した。

さらに、政府は5日、オミクロン対策として実施している水際対策を緩和すると発表した。市中感染が広がり、厳しい制限が無意味になったと判断したもので、ワクチン接種完了者は入国前のPCR検査または簡易検査が7日から不要となる。入国後の自己隔離を求める規制も撤廃する。

<AI19837>

伊政府、50歳以上のワクチン接種を義務化

イタリア政府は5日、50歳以上の人に新型コロナウイルスワクチンの接種を義務付けると発表した。オミクロン株の感染が拡大し、新規感染者が過去最高を更新しているため、接種義務化の対象を広げて感染、医療ひっ迫を抑えたい考えだ。

同国では2021年3月から医療従事者、介護施設の職員などのワクチン接種が義務化された。さらに、昨秋以降に学校の教員や軍、警察の要員にも義務付け、すべての職場で新型コロナワクチン接種や検査での陰性を証明する「グリーンパス」の提示を義務付けるなど、ロックダウン（都市封鎖）の再実施を避けながら感染拡大を抑える道を模索している。

しかし、オミクロン株の影響でこのところ1日当たりの新規感染者が過去最多となる状況に陥っている。5日の新規感染者は18万9,109人だった。政府は頭打ちとなっているワクチン接種を促進し、入院者が大きく増えるのを防ぐため、感染すれば重症化のリスクが高い50歳以上への接種を義務付けた。

また、50歳以上の方はワクチンを接種しないとグリーンパスが職場で無効となることも決めた。同ルールは2月15日から実施する。

欧州ではオーストリアで2月1日から14歳以上の接種が義務化されることが決まっている。ギリシャでは16日から60歳以上が義務化となる。

<AI19838>

EUのワクチン接種証明、有効期間9カ月に

欧州委員会は12月21日、欧州連合（EU）共通の新型コロナウイルスワクチン接種証明書について、有効期間を9カ月間とすることを決定したと発表した。欧州でコロナ感染が急拡大する中、免疫力が低下した人が域内を旅行するのを制限するのが狙い。有効期限を設けることで追加接種（ブースター）を促す意図もある。

EUでは2021年7月、各国が「EUデジタルCOVID証明書」と呼ばれる共通証明書をワクチン接種者やPCR検査で陰性の人、コロナに感染して回復した人に発行し、証明書を持つ人が入国時のPCR検査、入国後の一定期間の隔離なしに域内を自由に移動できるようにする制度の運用が正式に開始された。これまで有効期間は定められていなかった。

期限を設けるのは、ワクチン接種の証明。接種を終えてから9カ月以内に追加接種を受けなければ、EU域内間を自由に旅行できなくなる。

新ルールは加盟国、欧州議会の承認を経て2月1日に施行される見込みだ。

<AI19839>

エネルギー分野の国家補助、欧州委が新ガイドライン発表

欧州委員会は12月21日、気候変動や環境保護、エネルギー分野の国家補助に関する新たなガイドラインを発表した。2050年までの気候中立を目指す「欧州グリーンディール」の目標達成に向け、加盟国は効率的に脱炭素プロジェクトを支援できるようになる一方、化石エネルギーへの国家補助は厳しく制限される。新ガイドラインは全加盟国の公用語への翻訳作業が完了した時点で有効となる。

欧州委は11月、欧州連合（EU）が推進するデジタル化やグリーン化に対応した競争政策の方向性を示した政策文書を公表し、その中で環境保護やエネルギー分野の国家補助に関するガイドラインを見直す方針を打ち出していた。国家補助ルールを明確化して、単一市場における競争を著しく歪めることなく、欧州グリーンディールの目標達成に貢献するプロジェクトに公的資金を投入しやすくするのが狙いだ。

新たなガイドラインによると、温室効果ガスの排出削減や再生可能エネルギーへの転換、エネルギーの安定供給などに加え、建物のエネルギー効率化やクリーンモビリティなど、幅広い分野で公的支援が認められる。特に競争入札を経たプロジェクトでは、資金の不足を100%補助金でカバーすることが可能になり、加盟国は産業界の投資ニーズに対応するため、低炭素発電の支援を目的として政府が炭素価格を保証する「差額決済契約（Carbon Contract for Difference）」など、新たな制度を導入することができる。

一方、火力発電をはじめとする化石燃料事業への公的支援を段階的に停止する。天然ガス事業への新規投資は、EUの気候変動目標に適合していることが証明されない限り、原則として認められない。その一方、電力部門の脱炭素化を促進するため、石炭や泥炭、オイルシェールなどのプラント閉鎖が公的支援の対象となり、例えば職を失った従業員への給付金などを補助金で賄うことが可能になる。

欧州委のベステアー上級副委員長（競争政策担当）は「グリーン化を推進するには持続的な巨額の投資が必要で、その大部分は民間部門からもたらせるものの、公的支援も重要な役割を担う。加盟国は新たなガイドラインの下で脱炭素化に貢献するプロジェクトへの投資を拡大し、欧州グリーンディールの目標達成に向けた取り組みを加速させることができる」と強調した。

<AI19840>

原子力と天然ガスは「グリーン」な投資対象、欧州委が「タクソミー」リストに追加

欧州委員会は1日、原子力と天然ガスを脱炭素化に貢献するエネルギーと位置づけ、一定の条件下でグリーンな投資対象と認定する方針を発表した。両エネルギーに関連した事業を、2050年までに域内の温室効果ガス排出量を「実質ゼロ」にするとの欧州連合（EU）の目標達成に貢献する「持続可能な経済活動」と認め、投資を呼び込みやすくする。

EUは環境問題の解決に貢献する持続可能な経済活動かどうかを仕分ける独自の基準「タクソミー」を設けており、「気候変動の緩和」や「循環型経済への移行」など6つの環境目標を掲げる。欧州委はタクソミー規則（20年6月採択）の細則を定めた委任規則でそれぞれの目的に合致した事業をリスト化しており、第1弾として1月1日付で「気候変動の緩和」と「気候変動への適応」をカバーする委任規則の適用が開始された。

およそ500ページに及ぶ「グリーンリスト」では、風力や太陽光発電所の建設、低排出ガス車の生産、エネルギー効率化のためのシステム開発など、幅広い事業がグリーン投資の対象として分類されているが、争点となっていた電力部門では石炭火力発電を一律でタクソミーの適用外とする一方、加盟国間で意見が分かれる天然ガスと原子力について結論を先送りしていた。

タクソミーを巡っては、フランスやフィンランド、チェコなどが原発を持続可能と分類するよう求める一方、石炭に依存するポーランドなど東欧諸国は天然ガスを移行期の技術として認めるべきだと主張。これに対し、原発廃止を掲げるドイツやオーストリアなどは、両エネルギーをタクソミーに含めることに反対していた。

欧州委は今回、原子力と天然ガスをグリーンリストに追加する案について、両エネルギーは「再生可能エネルギーがベースとなる将来への移行を促進する手段として役割がある」と説明。持続可能との認定は移行期における一時的な位置付けである点を強調し、反対する国への配慮を示した。

欧州委はグリーンリストを更新した委任規則案について、12日までに加盟国の専門家グループなどから意見を求め、そのうえで月内にも最終案をまとめる。その後、閣僚理事会と欧州議会で協議し、否決されなければ適用が開始される。しかし、欧州委の発表を受けて早くもドイツやスペインなどから反発する声が上がっており、委任規則案は今後修正される可能性もある。

ドイツのハベック経済・気候相は3日、「金融市場が欧州委の提案を受け入れるかどうか疑わしい」と述べ、原発は「脱炭素に貢献する」との認定方針を強く批判。スペインのリベラ環境保護相も「グリーンエネルギーへの移行プロセスで誤ったシグナルを発信することになる」と指摘した。

■ ベルギーは25年に全原発閉鎖へ

ベルギーで連立政権を構成する7党は12月23日、計画通りに国内に7基ある原子炉を全て2025年までに閉鎖することで合意した。同国では03年に25年の原発全廃を決定したが、代替電源の確保が遅れ、計画が先延ばしされるとの見方も出ている。

現在は国内2カ所で原発を稼働させているが、近隣諸国からは老朽化を懸念する声も上がっている。7党は原発の廃止目標を維持する一方、小型モジュール原発（SMR）など次世代原発の開発は認める方針で一致した。

<AI19841>

欧州委、復興基金の財源確保案発表

欧州委員会は12月22日、欧州連合(EU)が創設したコロナ復興基金の財源確保案を発表した。排出量取引、国境炭素税、多国籍企業への課税の収入の一部をEU予算に組み込んで独自財源とし、復興基金のため調達した資金の返済に充てる。最大で年170億ユーロを確保できると見込んでいる。

コロナ復興基金(正式名称:次世代EU)は7,500億ユーロ規模。欧州委が環境債など債券の発行で調達した資金をEUの中期予算に組み込み、コロナ禍で経済が大きな打撃を受けた国に補助金と融資の形で配分する。

欧州委は物価の変動を考慮し、基金の規模を上回る8,000億ユーロを26年末までに調達することになっている。調達した資金は2058年まで30年間をかけて償還する。このため、新たな財源が必要だ。

欧州委案で柱となるのは、EUの排出量取引の収入。現行制度では排出枠の入札で得た収益の大半が加盟国の取り分となっているが、25%をEU予算に組み込む。自動車と建物の冷暖房用の燃料を対象とする新たな排出量取引制度を設けることも前提に、26~30年に年平均120億ユーロ程度を確保できる見通しだ。収入の一部は、脱炭素化促進で生じる低所得層の負担を軽減するため創設を提案している「社会気候基金」にも充てる。

国境炭素税は温暖化対策が不十分な国からの輸入品に事実上の関税を課すもの。欧州委が21年7月に提案し、23年から段階的に導入することを目指している。欧州委案では税収の75%を復興基金償還に充てる。財源規模は年平均10億ユーロ。

多国籍企業への課税は、経済協力開発機構(OECD)加盟国を中心とする136カ国・地域が21年10月に合意したもので、巨大IT企業などに課税する。欧州委はEU加盟国が得た税収の15%をEU予算に組み込むことを提案している。年平均25億~40億ユーロを確保できると見込んでいる。

欧州委の独自財源案は加盟国と欧州議会の承認が必要。加盟国の間では排出量取引の収入が減ることに反発する動きが早くも出ており、調整は難航が予想される。

<AI19842>



「欧州経済ウォッチャー」は毎週月曜日発行
経済活動に大きく影響する政策動向から統計データまで、深くわかりやすく

無料トライアル受付中!



テクノロジー・トレンド

技術大国ドイツを中心に
注目の技術情報を集めています。

独ラインメタル、米新興企業と DC リンクコンデンサの合併設立

独軍需・自動車部品大手のラインメタルは 11 日、米新興企業のポリージャージ・アメリカと直流 (DC) リンクコンデンサの開発・生産・販売を事業とする合併会社ラインメタル・ポリージャージを設立すると発表した。出資比率は、ラインメタルが 75%、ポリージャージ・アメリカが 25%。また、ラインメタルはポリージャージ・アメリカの資本の約 13%を取得する。取引価格については公開していない。

新合併会社は、特殊なナラム (NanoRam) 技術を採用する直流 (DC) リンクコンデンサの生産・販売の独占権を持つ。ラインメタルは、電気自動車 (BEV) の効率改善や航続距離の延伸に寄与する開発中の製品「パワーパック」システムに DC リンクコンデンサを活用する計画。

ポリージャージは、ゼネラルエレクトリックのスピノフとして 1985 年に設立されたシグマ・テクノロジーズがナラム技術を販売するために設立した新興企業で、米アリゾナ州のツーソンに本社および工場を持つ。従業員数は 15 人。

<AI19843>

蘭トムトムの自動運転向け地図製品、自動車大手の採用増える

オランダのデジタル地図サービス大手トムトムは 6 日、同社の自動運転向け地図製品を採用する自動車メーカーが増えていることを明らかにした。先進運転支援システム (ADAS) 向け地図製品「ADAS マップ」を利用している自動運転車両は 500 万台を超えたほか、高精細地図の「HD マップ」は世界の自動車メーカー上位 10 社が採用している。

「ADAS マップ」は北米と欧州の自動車メーカーが製造するレベル 1 とレベル 2 の自動運転車が導入しており、その数は過去 3 年間で 10 倍に拡大した。同マップは車両の ADAS システムに制限速度や交通標識、勾配、カーブ、車線情報などを提供し、車両が道路の前方をより正確に予測できるよう支援する。

「HD マップ」は自動運転技術の要となる技術で、実際の道路の様子をセンチ (cm) 単位の精度で地図に反映する。自動運転車の位置決めや、センサーによる周囲環境の把握、運転操作の決定などのベースとなるもので、オートパイロット機能のほかレベル 5 の完全自動運転車両の開発にも寄与する。トムトムによると、「HD マップ」は世界の「5 大自動車メーカーの 3 社」が採用している。

<AI19844>



情報の少ない中東欧、ロシア・CIS、

トルコの経済動向を分かりやすい日本語で

無料トライアル受付中!

「東欧経済ニュース」は毎週水曜日発行

目で見える欧州自動車産業ニュース

英国、乗用車新車登録：2021年通期

英国、乗用車新車登録台数：ブランド別					
ブランド	2021年12月		2021年1～12月		前年比 (%)
	登録台数	市場シェア (%)	登録台数	市場シェア (%)	
アバルト	105	0.10	2,335	0.14	-0.60
アルファロメオ	124	0.11	1,574	0.10	-25.30
アルピーヌ	13	0.01	202	0.01	92.38
アウディ	7,647	7.04	117,953	7.16	9.38
ベントレー	116	0.11	1,348	0.08	0.82
BMW	6,420	5.91	116,577	7.08	0.95
シトロエン	1,436	1.32	30,204	1.83	7.64
クブラ	564	0.52	7,584	0.46	4,581.48
ダチア	1,742	1.60	17,568	1.07	-7.14
DS	279	0.26	2,362	0.14	-0.71
フィアット	1,427	1.31	20,154	1.22	4.68
フォード	4,973	4.58	116,305	7.06	-23.87
ジェネシス	11	0.01	127	0.01	0.00
ホンダ	1,588	1.46	26,928	1.63	-1.35
現代	4,740	4.36	69,680	4.23	46.67
ジャガー	1,333	1.23	18,868	1.15	-26.05
ジープ	195	0.18	4,463	0.27	-3.79
起亜	2,903	2.67	90,817	5.51	28.75
ランドローバー	2,669	2.46	53,111	3.22	-9.22
レクサス	701	0.65	13,878	0.84	1.10
マセラティ	69	0.06	765	0.05	30.77
マツダ	1,174	1.08	25,852	1.57	13.68
メルセデスベンツ	5,508	5.07	97,945	5.95	-11.67
MG	1,126	1.04	30,600	1.86	66.17
MINI	5,924	5.46	45,756	2.78	-0.77
三菱自	0	0.00	5,125	0.31	-43.53
日産	6,365	5.86	68,494	4.16	-4.78
プジョー	4,544	4.18	61,106	3.71	6.85
ポールスター	433	0.40	4,096	0.25	381.88
ポルシェ	2,221	2.05	13,702	0.83	-4.07
ルノー	2,019	1.86	29,836	1.81	-30.19
セアト	1,032	0.95	43,130	2.62	-5.04
シュコダ	3,665	3.37	55,561	3.37	-5.34
スマート	138	0.13	1,581	0.10	14.81
サンヨン	93	0.09	1,525	0.09	2.49
スバル	176	0.16	2,107	0.13	121.56
スズキ	842	0.78	20,976	1.27	5.74
トヨタ	6,078	5.60	100,895	6.13	9.92
ボックスホール	6,097	5.61	91,452	5.55	-4.18
フォルクスワーゲン	8,854	8.15	147,826	8.97	-0.35
ボルボ	3,443	3.17	48,260	2.93	3.99
その他(英国ブランド)	129	0.12	2,206	0.13	13.83
その他(輸入車)	9,680	8.91	36,347	2.21	39.34
合計	108,596	100	1,647,181	100	0.99

出所：英自動車工業会(SMMT)

英国、乗用車新車登録台数：2021年 モデル別 TOP10					
順位	2021年12月		順位	2021年1～12月	
	モデル	台数		モデル	台数
1	テスラ「モデル3」	9,612	1	ボックスホール「コルサ」	40,914
2	MINI	4,625	2	テスラ「モデル3」	34,783
3	ボックスホール「コルサ」	2,608	3	MINI	31,792
4	日産「ジューク」	2,270	4	メルセデスベンツ「Aクラス」	30,710
5	日産「キャシュカイ」	2,122	5	フォルクスワーゲン「ポロ」	30,634
6	フォード「プーマ」	1,827	6	フォルクスワーゲン「ゴルフ」	30,240
7	ボックスホール「モッカ」	1,821	7	日産「キャシュカイ」	29,922
8	ボルボ「XC40」	1,755	8	フォード「プーマ」	28,697
9	プジョー「2008」	1,672	9	起亜「スポーテージ」	27,611
10	日産「リーフ」	1,578	10	トヨタ「ヤリス」	27,415

出所：英自動車工業会 (SMMT)

英国、乗用車新車登録台数：2021年通期 モデル別 TOP10					
電気自動車 (BEV)			プラグインハイブリッド車 (PIHV)		
順位	モデル	台数	順位	モデル	台数
1	テスラ「モデル3」	34,783	1	BMW「3シリーズ」	10,979
2	起亜「eニロ」	12,271	2	メルセデスベンツ「Aクラス」	6,495
3	フォルクスワーゲン「ID.3」	11,032	3	ボルボ「XC40」	6,362
4	日産「リーフ」	9,052	4	フォード「クーガ」	6,137
5	アウディ「eトロン」	7,396	5	アウディ「A3」	5,755
6	現代自「コナ」	7,199	6	レンジローバー「イヴォーク」	4,537
7	MINI	6,615	7	BMW「X5」	3,703
8	ルノー「ゾエ」	5,778	8	ボルボ「XC60」	3,538
9	ボックスホール「コルサe」	5,605	9	レンジローバー「スポーツ」	2,919
10	MG「ZS」	5,380	10	セアト「レオン」	2,726

出所：英自動車工業会 (SMMT)

<AI19845>